

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 2 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470501952		
法人名	光電産業株式会社		
事業所名	グループホーム（夢）		
所在地	呉市焼山本庄4丁目2番18号 TEL (0823) 33-3080 FAX (0823) 34-0605		
自己評価作成日	平成23年12月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470501952&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年1月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

運営推進会議を通じて、情報を得ながら地域行事（花見・夏祭り・秋祭り・とんど・防災訓練）に積極的に参加し、日本舞踊・フラダンス・音楽会などの開催で地域ボランティアの方々との交流も大切にしています。また、個別ケアの充実にも力を入れており、毎日の個別の関わりの中で表情や仕草、行動などから言葉で表しきれない想いを大切に、心に寄り添うケアを実践し、入居者様本位のその方らしい、生活を送って頂けるよう支援しています。職員は、外部研修の参加や毎日テーマを決め、内部研修を実施し、スキル向上に対しても意欲的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム(夢) (以下、ホーム) は、呉市焼山地区の住宅団地の中にあります。ホームのリビングには、アロマの良い匂いがほのかに漂い落ち着いた環境が整えられています。法人が運営する隣接のデイサービスとは、外出や音楽会などの行事を合同で実施し、日常的に交流が行われています。

地域の行事には入居者と職員が積極的に参加されています。ホームが地域の一員として認められるよう年数をかけて自治会長や住民へアピールしてこられました。現在では、お互いが支え合う関係を築かれています。また、運営推進会議には地域住民の参加もあり、毎回テーマを決めて、参加者と意見交換を行いながら運営に反映できるよう取り組まれています。

入居者とのコミュニケーションの一環として、学習療法をホーム独自にアレンジした「夢セラピー」を実施し、無理強いせず一人ひとりの状態に合わせた個別ケアに努められています。

入居者のこれまでの暮らしが継続できるよう、地域・職員・家族が一体となって支援されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念は私達の日々のケアの根拠であり、常に意識して実践に繋がるよう伝えていきます。毎月の定例職員ミーティングにおいて理念を共有出来るよう再確認しています。	法人理念はフロアに掲示されています。また、法人理念を基本に、今年度はホーム独自の指針を作成されています。理念・指針を職員全員で共有し日々のケアで実践できるよう、毎日確認されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会主催の花見や祭りなど地域の行事に参加し地域住民との交流を行っている。	自治会に加入し、地域の行事には入居者と職員が積極的に参加されています。ホームが地域の一員として認められるために、年数をかけて自治会長や住民へアピールした経緯があり、現在では、地域の一員として日常的に交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて、質疑応答等で説明し参考にして頂いている。今年度は認知症サポーター研修会を開催し、地域住民へ認知症への理解を深めていただけるよう支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、事業所の活動状況・入居者状況等を報告し、認知症に対して理解して頂けるよう努め助言を頂きながら常に意見交換しサービスの質の向上に努めている。	会議は2か月に1回開催し、利用者・家族代表・自治会長・民生委員・呉市職員・地域包括支援センター職員の参加があります。会議は、家族などからの質問をもとに年間テーマを決め開催されています。また、防災をテーマにした会議では、消防署職員の参加もあり、サービスの質の向上に活かされる意見・提案が出されています。さらに、話し合った内容はホームページへ掲載したり、家族会で報告が行われています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に市職員や地域包括支援センターの職員にご参加頂き、情報提供を受けたり、市役所へ出向いたり、電話にて報告及び指示を頂きながら、関係を密にしていこう取り組んでいる。	運営推進会議に呉市職員・地域包括支援センター職員の出席があり、日常から綿密な連携が図られています。また、ホームにはオレンジアドバイザーの職員が、呉市や地域包括支援センターと連携しながら活動されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束をしないケア」について職員の内部研修を実施し、事業所内の身体拘束排除の方針に従って、無意識のうちに行っていないか確認しながらケアを行っている。</p>	<p>外部研修や内部研修を通して、身体拘束をしないケアの考え方について理解を深められています。また、ホームの方針を職員全員で共有し、実践に努められています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止についての内部研修を実施し、職員一人ひとりが自覚を持ち日頃より、入居者への声掛けや対応も意識しながら行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者は社外での研修に参加し、制度の理解を深めながら成年後見制度を利用されている入居者もおられるため、職員も内部研修で理解を深めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、重要説明事項等読み上げながら、ケアに対する考え方や実際の取り組みについて丁寧に説明し、質問を受けながら同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ケアプラン作成時には本人・家族の意見・要望を聞き取りプランに組み込みながら面会時には、家族の意向・意見を聞き、その支援経過を現場で記録し、情報を職員間で共有し、運営や支援に反映している。</p>	<p>家族会や面会時など、色々な場面で意見を言いやすい機会づくりに取り組まれています。また、出された意見などは細かく記録し、職員全員で話し合い運営に反映できるよう努められています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の申し送りや毎月の定例職員ミーティング等を通じ職員一人ひとりの意見や提案を反映できるようにしている。</p>	<p>職員の意見や提案は「何でも気づきノート」に記載され、毎朝行うミーティングで話し合われています。また、職員一人ひとりが1日の気づきを時間表に記載し、全体で共有し運営に反映させる仕組みが整えられています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>適材適所人材を配置できるよう、入社後も個人面接を行い希望・気持ち・労働条件など話し合い現場にも1日1回は出向き報・連・相の強化と共に組織の向上を常に目指している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修を実施したり、外部研修の案内で職員が希望する研修に参加できるよう配慮している。また毎月の定例職員ミーティング時に研修報告する事でトレーニングアップを目指している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループホーム協会などに加入し同業者の集まりには参加するようにしている。ホームページなどの利用により事業所内の様子をこまめに更新し自社にサロンを立ち上げ、ボランティアなど地域の方に利用して頂きコミュニケーションの向上を目指している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>相談から入居にいたるまでの間、何度も話し合いの場を持ち、出来るだけ本人やご家族が入居に対して納得・安心していただけるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の話しをよく聞かせていただき、不安を解消できるようなサービスを提供することで、安心していただけるようなよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自ホームでの対応が困難な場合が発生した時には本人・家族の理解を得た上で、他のサービスの利用を含めた対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行うことで暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員で本人を支えるのではなく、家族面会時等で、生活情報を発信、情報を共有し、共に支え合う関係の維持に努める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人との面会はいつでもでき馴染みの関係が継続できるよう支援してる。地域の祭りの見物や墓参りなどこれまでの生活が継続出来るよう支援している。	併設するデイサービス利用者との交流や職員家族が来訪した時など、入居者と世間話を楽しまれています。また、入居前からの友人や知人の来訪や家族会などの開催で、これまでのつながりが途切れないようにされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、入居者同士食事・おやつの時間など居間で出会える様にし、支え合える関係が持てるようサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居者が亡くなりサービスが終了となることが多い。必要により契約終了後も家族の相談に応じ関係の継続を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日のバイタル時など関わりの中で、表情や仕草・行動などから、言葉では表しきれない想いを読み取る努力をしている。	入浴時や日常会話などを通して、入居者一人ひとりの思いや意向を把握されています。また、得た情報は生活記録へ細かく記載し、職員全員が共有しながら個別に対応できるよう取り組まれています。意思表示が難しい入居者には、その日の表情や様子を見ながら思いや意向の把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、本人・家族・身近な方などより今や昔の習慣、生活歴、出来る事、出来ない事等、出来るだけ細かく情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	過去の生活歴からなみじの過ごし方、本人らしい過ごし方を検討し入居者個別の生活の流れを把握しています。入居者に合った生活の流れの中で気分の変動や認知症面での変化や身体変調を見逃さないような体制作りにも努めている日々の暮らしを個別ケアシートに日々記入し毎日の暮らしの現状を把握をし安心して生活できるようサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者と直接的な話し合いや日々の関わりの中で、気付いた気持ちや想いを汲み取り、家族とは面談を実施し、医療面は在中看護師や主治医の意見を参考に、介護支援専門員が中心となって、総合的な援助計画を作成している。</p>	<p>モニタリングで把握した入居者の状況を整理し、ケアマネジャーを中心に介護計画が作成されています。また、計画案を職員や関係者と検討し意見をとり入れながら、入居者一人ひとりの現状に即した計画が実行されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別のケアシートに日々生活を記載しており、特に申し送りたいことは、申し送りノートに記載・又毎月のケース会議にて生活の変化、症状の変化、気分の変化等モニタリングし、サービス計画の見直しに活かしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人希望に応じ、併設されているデイサービスに参加していただいたり、突然的な受診の対応や外出の希望があった時は、家族と連携を図り、調整し柔軟に支援・対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域民生委員に避難訓練に参加して頂いたり地域行事への参加や地域ボランティアによる演奏会など、交流を通じて地域資源を活用し、安全で豊かな暮らしを支援しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所での入居者の生活状況や服薬後の経過などかかりつけ医に詳しく伝え、治療や薬の処方が適切に行われるように配慮しています。又看護師と介護職員の連携により日常の健康管理や家族との連絡も綿密に行っています。</p>	<p>入居者のほとんどは職員付き添いのもと、協力医療機関で受診されています。また、ホームでは月2回内科、月1回歯科の往診が行われ、綿密に連携を図りながら健康管理に取り組まれています。入居前までのかかりつけ医へは、家族や職員が付き添い受診されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員を配置しており、健康管理・相談の体制が整えられています。看護記録と介護記録を1枚のケアシートに記入し情報を共有している。日頃入居者と接している看護師がいる事で、入居者の細かい変化にもその都度対応できています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>運営推進会議にも協力病院のソーシャルワーカーに参加していただき情報交換や相談に努めています。入院した場合は、こまめに様子を伺いに行き看護師や医師からの報告を受け、早期退院に向けての調整を行っています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に事業所の重度化への対応方針を説明し、同意を頂いています。必要な段階では家族を含め、主治医・看護師等と十分な話し合いを行い、チームでの支援に取り組んでいます。</p>	<p>重度化した場合の対応については、ホームの方針を入居時に説明し、医師や家族と連携を図りながら支援できるよう取り組まれています。また、職員研修を実施し、看取りについてホームの全職員が一つになって支援するよう努められています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを整備し、内部研修を実施しながら緊急時の対応をすべての職員が迅速・適切に実施できるよう努めています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署立会いのもと年に2回は入居者も一緒に避難訓練を行い、入居者の安全な避難誘導法や消火器の使い方の確認をしています。自治会にも協力体制を依頼しております。自治会にも地域民生委員にもご参加いただきます。</p>	<p>ホームで行う避難訓練は、地域住民の参加を得て実施されています。また、自治会の防災訓練は、入居者と職員が参加し、地域住民との協力体制も整えられています。また、ホームには防火管理者を配置されています。</p>	<p>今後は、消防署の協力を得ながら夜間を想定した避難訓練が実施できるよう期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの尊厳を守ることを理念に掲げ、入居者の全体像を理解することに努め、人生の先輩として敬意を持った対応に心がけている。	入居者の性格や習慣をしっかりと把握し、配慮しなければならないことを考え、本人主体の支援に努められています。言葉かけや対応などで職員同士気づきがあれば、お互いにすぐ注意し合っておられます。また、ミーティングや申し送りなどでも再度確認し、本人の尊厳を優先した支援を心がけておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	直接的に思いやり希望を表出することが少ない為、会話の中でさりげなく現れる感情や希望を読み取り、本人の気持ちに沿った援助をすることに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課スケジュールはあるが、朝の申し送りにて、昨夜の深夜状況や、朝の状態を確認し、一人ひとりの過ごし方を検討しています。その後も、日中会話を通じ、入居者の希望や要望を読み取りケアに活かしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月の美容マッサージ・ボランティアの化粧マッサージで、女性としての美の喜び体感して頂き、外出時は、特におしゃれが出来るよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬な食材を使用し、季節にあった手作りの料理を、職員も同じテーブルに着き、会話を楽しみながら食事をして頂いています。各入居者の力に応じ、調理の下準備や、下膳、洗い物など出来る事を一緒にしています。	ホームで調理された温かい食事が提供されています。職員は入居者と同じ食事を取り、共通の話題で会話を楽しみ、一人ひとりのペースに合わせた食事ができるよう取り組まれています。また、ケーキなど季節や好みに合わせたおやつを、入居者と職員と一緒に作り楽しまれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスを考え献立を作り，一人ひとりの水分量・食事量の把握には気をつけており，こまめな声掛けや主治医からの処方されている栄養補助食品の補充などで，体調不良になることのない様支援している。その方の状態に合わせて食事の形態やメニューを変更しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>一人ひとりの力に応じた，口腔ケアを毎食後支援している。又毎月歯科医による往診で，口腔チェック・指導を受けています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ADL・アセスメントや排泄パターンを把握。出来るだけ，排泄はトイレで行えるよう支援し，声掛け誘導を行っています。居室にPTイレを設置し，起床時等の排便の習慣化の支援も行っています。</p>	<p>排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し，トイレ誘導による排泄自立に向けた支援に取り組まれています。夜間使用するパッドやおむつは，排泄の失敗をした時でも不快感がないよう，種類を変え工夫されています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の排便状況を記録しながら，体調不良にならないように申し送りされています。下剤に頼らず食物繊維の多く含まれる食材やヨーグルト・牛乳を摂取し，腹部マッサージ施行し，排便予防に努めています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>いつでも入浴できる24時間循環風呂を設置しており，いつでも入浴できる体制になっています。</p>	<p>1日おきの入浴を基本に支援されています。脱衣所や浴室には空調が完備されており，寒い日でもゆったりと入浴を楽しんでもらえるよう配慮されています。入浴を好まない入居者には，無理強いせず声かけの工夫やタイミングを考え支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は個々の居室や共有スペースの畳で、自由に休息を取っていただき、夜間は居室の室温や寝具の状態・入眠状況の確認を行い、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の服薬リストを整備し、変更があれば、ケアシートに記入し、申し送りで情報伝達している。服薬リストにて、薬効や用量・用法などを、全職員がその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	これまでの生活歴を把握し、役割や楽しみ事・気晴らしを検討実施している。例えば、調理参加・書道などその人らしさを発揮できる場を提供できるよう心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者の気持ちを読み取る努力をし、散歩や日光浴・買い物などの支援に結びつけている。外出の際は車椅子を利用し、身体に負担がかからないよう支援しています。	天気の良い日は、ホーム周辺や近くの公園へ散歩して気分転換を図られています。また、入居者は職員と一緒に近くのスーパーマーケットへ食事の材料の買い出しに行くこともあります。デイサービスとの外出行事は、職員が下見に行き、安全面を確認したうえで実施されています。本人の希望や意向が実現するよう、個別への支援も対応できるよう体制を整えられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の金銭の取り扱いはなく、管理部事務で行っています。買い物の際は職員のサポートの下で楽しんでいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	通信支援等は本人の希望があれば、随時行い、入居者の連絡先を一覧にしすぐに確認出来る事で、いつでも家族や知人と連絡が出来るようにしています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や季節の花など飾ったり、居室前は個々の名前をつけて、又トイレも分かり易いよう張り紙で案内している。	リビングとキッチンが一体的な造りになっており、開放感があります。また、照明は明るく、畳敷きスペースにはこたつが設置され、思い思いの場所でゆったりとくつろげるようになっています。また、共有空間にはアロマの良い匂いがほのかに漂い、入居者の癒しとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	コミュニケーションがとり易い方々との食卓配置にしている。現在は身体機能の低下からゆっくり自室で過ごされる方が多いです。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時は、なじみのあるものを持ち込まれよう家族にお願いしている。本人の趣味・嗜好を取り入れながら、それぞれの暮らしや習慣の継続に配慮したものとなっている。	各居室には、ベッド・布団が完備され、タンスやソファも備え付けられている部屋もあります。入居者は使い慣れた家具や馴染みの品を持ち込み、個性に合わせて居心地よく生活できる環境になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	アセスメントした上で、安全に配慮しながら、その方の力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるよう工夫しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム (夢)

作成日 平成 24 年 2 月 29 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	H23年度夜間想定した避難訓練未実施。	H24年度実施。 消防署の協力を得ながら夜間想定した避難訓練。	運営推進会議にて地域防災委員, 自治会長へ協力体制依頼。 当施設の防火管理者を中心に具体的に日程, 内容等検討していく。	H24年度内実施予定
2					
3					
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。